

## 第4節 常盤構内（山口大学工学部構内遺跡）の調査

### 1. 工学部総合研究棟改修工事（Ⅱ期）に伴う確認調査

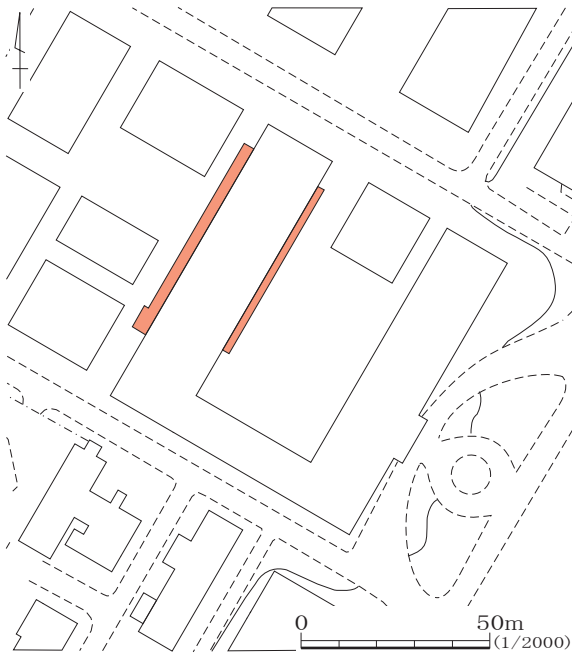


図 62 調査区位置図

調査地区 常盤構内

調査面積 約280㎡

調査期間 平成18年10月13・16日

調査担当 田畑直彦

調査結果 工学部総合研究棟改修工事（Ⅱ期）に伴い、Ⅰ期工事と同様に建物改修工事と配管工事が計画された。工事では幅約3mで、研究棟東側が長さ約50m、西側が約57mの範囲で、現地地表下約130～150cmまで掘削が行われた。調査の結果、研究棟東側、西側ともほとんどが造成土の範囲内であった。ただし、研究棟東側のA地点では、現地地表下43cmで黄褐色（10YR7/8）シルト、81cmで灰白色（10YR7/1）シルトの地山を確認した。

以上により、今回の調査区内においても平成15年度の調査と同様に構内造成時の削平が著しいことが判明した。

[註]

- 1) 田畑直彦（2005）「第1章第5節 工学部本館改修工事に伴う立会調査」,山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成15年度－』,山口



写真 146 研究棟東側調査区全景（北東から）

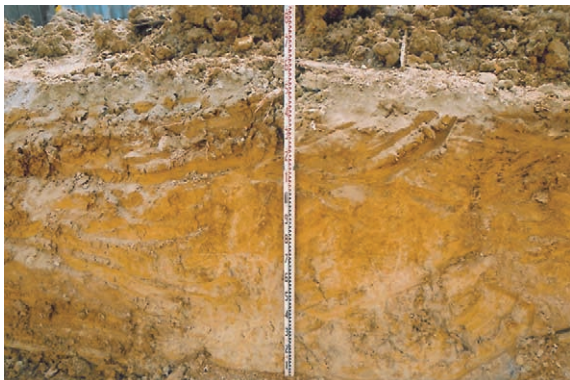


写真 147 A地点土層断面（北西から）